

プレスリリース

ナニオンテクノロジーズジャパン 研究および協力関係の強化を目指し東京大学に研究拠点を移転

ナニオンテクノロジーズジャパン株式会社
東京都目黒区駒場4-6-1 駒場オープンラボラトリーM204
2025年4月

ナニオンテクノロジーズジャパンは、同社の研究拠点を東京大学内のオープンラボラトリーに移転することを発表しました。これは日本における研究活動の強化と同社の業務拡大における重要な一歩となります。

Accelerating research

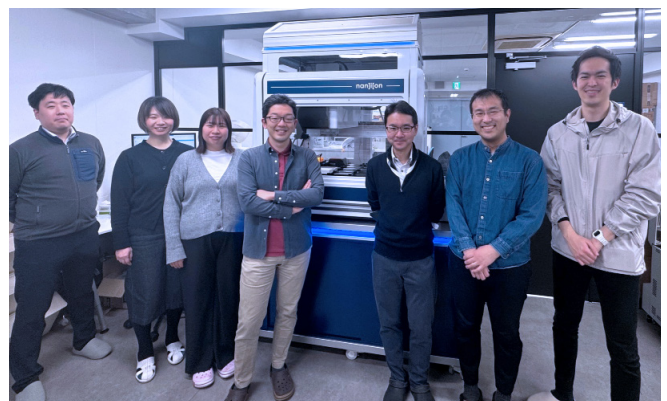
ナニオンは、最先端の機器と専門知識を提供することで、主に膜生理学分野における研究を支援することに注力しています。東京大学にラボを移転することで、活気に満ちた研究環境の中心に位置することができ、最先端の研究を行っている研究者や、新進気鋭の研究者とともに研究を行うことができます。ライフサイエンス研究における信頼できるパートナーとして、創薬、イオンチャネル研究、膜タンパク質研究における画期的な発見を可能にすることが私たちの目標です。

新しいラボは、ライブデモンストレーションに対応した設備を完備しており、研究者が当社の技術を実際に体験できる場を提供します。研究者や業界の専門家が新しい技術を導入する際に情報に基づいた意思決定を行えるよう、当社の装置がどのように動作するのかを直接ご覧いただけます。

科学的な協力の促進

今回の移転により、東京大学の加藤英明教授の研究室との連携を深めることができます。加藤研究室は、膜受容体、イオンチャネル、輸送体に関する先駆的な研究を行っている研究グループです。ナニオンの電気生理学に関する専門知識と、加藤研究室のオプトジェネティクスおよびGタ

ンパク質共役受容体 (GPCR) の研究における進展を融合させることで、膜タンパク質の研究や創薬における革新を加速させることを目指しています。



加藤教授と加藤研究室のメンバー

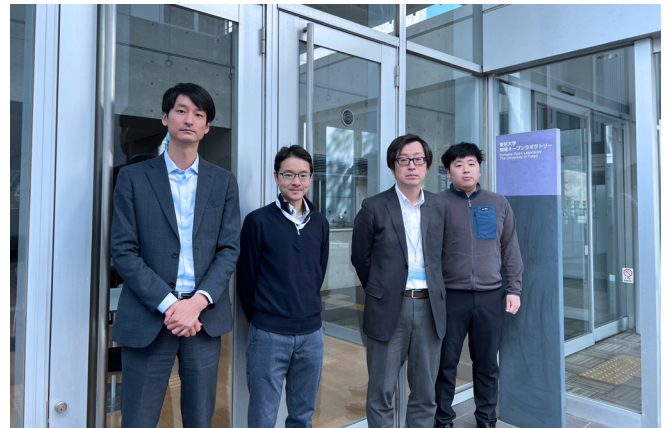
左から：松本 岳海（ナニオン）、池田 寿子さん、金 穂香さん、
加藤 英明教授、岡 貴之（ナニオン）、福田 昌弘助教、岸 孝一郎さん

「ナニオンテクノロジーズが私たちの研究環境に参加することを嬉しく思います。このパートナーシップは、私たちの研究コミュニティのみならず、タンパク質工学や創薬の分野全体にとっても大きな利益をもたらすでしょう。」

— 東京大学 加藤 英明 教授

さらに、東京大学という立地を生かし、私たちは科学的なミーティングやワークショップ、トレーニングセッションなどの様々なイベントを計画しています。研究者がアイデアを交換し、新しい手法を探求し、当社の機器を使った実践的な経験を得る貴重な機会を提供します。

この取り組みの一環として、2025年7月に「Membrane Physiology Symposium Japan」を開催することをお知らせいたします。2024年にカリフォルニア州ナパバレーで開催された初のイベントに触発され、このシンポジウムは膜生理学や生物物理学の研究者を一堂に会し、知見を共有し、アイデアを交換し、日本における科学的協力を強化することを目的としています。



ナニオンジャパンのチームメンバー

左から：井上 萌幸（セールスマネジャー）、岡 貴之（代表取締役）、嶋根 三好（アプリケーションサポートマネジャー）、松本 岳海（アプリケーションサイエンティスト）

ナニオンテクノロジーズについて

ナニオンテクノロジーズは、イオンチャネルを標的とした創薬およびスクリーニングのための機器を提供するリーディングカンパニーです。2002年に設立され、現在では世界中に120名以上の従業員を有する企業に成長しました。ナニオンのチームは、4世代にわたる自動パッチクランプ機器を開発・確立し、その他にも細胞モニタリングや毒性スクリーニング、人工脂質二重膜記録、膜輸送体タンパク質測定のための製品を展開しています。

加藤英明教授の研究室について

東京大学の加藤研究室は、膜受容体、イオンチャネル、輸送体の分子メカニズムを研究しています。構造的、生物物理的、生化学的、電気生理学的な技術を組み合わせて、これらの膜タンパク質がどのように機能するのかを解明することを目指しています。

お問い合わせ先

ナニオンテクノロジーズジャパン株式会社

岡 貴之

Email: Takayuki.Oka@nanion.jp

Phone: 03 6555 3773

Website: www.nanion.de/ja/

